

I. 基本方針

公益財団法人沖縄県交通遺児育成会は令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）も、交通遺児等への無償の給付事業をより充実したものとすることを目的に、「1. 奨学金等給付事業」、「2. 人材健全育成事業」、「3. 募金・寄付金受入事業、広報活動事業」を次の通り実施いたしました。

II. 事業報告

1 奨学金等給付事業

令和2年度は、生計の維持が困難な交通遺児等を対象に延べ80人に対し、総額731万6000円を給付しました。

(1) 奨学・育成金の給付

児童生徒・学生人73人（前年度比14人減）に計717万6000円（同162万円減）を給付しました。

前年度人数増減の内訳は小学生2人増、中学生6人減、高校・高等部7人減、大学生3人減でした。

新学期開始と同時に県内の小学校から大学までの525校へ在籍調査文書を送付して給付募集しました。「奨学生等選考内規等」に基づき応募申請書を事務局が書類審査。9月、専門機関で組織する選考委員会での認定を経て給付決定しました。

当年度の申請者は73人で、全員が認定されました。

【ア. 育 成 金】

・小学生	13人	624,000円
・中学生	12人	648,000円
・高校生	27人	2,592,000円
・特支生(高等部)	2人	192,000円
小計	54人	4,056,000円

【イ. 奨 学 金】

・専門生	12人	1,440,000円
・大学生	7人	1,680,000円
小計	19人	3,120,000円

合計 73人 7,176,000円を給付

(2) 激励金の給付

激励金は、対象者7人（前年度比1人増）に対し14万円（同2万円増）を給付しました。内訳は中学校入学2人、中学校卒業5人でした。

【ウ. 激励金】

・中学1年生	2人へ	40,000円
・中学3年生	5人へ	100,000円
小計	7人	140,000円を給付

2 人材健全育成事業

交通遺児らをイベントに招待して励ましました。また、当会の奨学生等選考内規で対応できない県外進学 of 大学生・専門学校生を外部の奨学制度に推薦しました。県外へのリーダーシップ育成事業への派遣は新型コロナウイルス感染症拡大のため当年度は実施されませんでした。

(1) クリスマス交流・激励会の開催

新型コロナウイルス感染症拡大のため当年度は中止になったイベントが多く、例年に比べイベント招待券寄贈が減りました。

そうした中でも琉球ダイハツ販売から2月と3月開催の琉球ゴールデンキングス公式戦チケット各30枚、合計60枚の寄贈がありました。本島内の子どもたちを招待し、保護者から「試合に感激した」との感謝の声が寄せられました。

(2) (公財) 儀間教育振興会への大学生・専門学校生の推薦（指定枠）

公益財団法人儀間教育振興会の奨学制度に交通遺児枠として県外進学 of 大学生6人と専門学生1人、県内進学 of 大学生1人と職業能力開発大学校生2人、計10人を推薦、奨学金が給付されました。

同振興会の奨学金は1人年額24万円です。交通遺児枠は平成5（1993）年度に設けられ、以降28年間で、当会推薦の学生は322人、給付総額は7,454万円に上っています。

(3) (公社) 沖縄県青少年育成県民会議の県外派遣団員の推薦（指定枠）

公益社団法人沖縄県青少年育成県民会議が主催する「青少年フレンドシップイン九州」（7月）と「沖縄県・兵庫県青少年交流事業フレンドシップイン兵庫」（12月）は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、当年度の派遣はできませんでした。

本事業は、4泊5日（冬は3泊4日）で県外 of 子ども達との交流事業で、共同生活を通し自主性や協調性を養うことを目的としています。対象者は小学5、6年生で、

交通遺児枠が設けられています。

(4) 沖縄ライオンズクラブの夏季海外短期留学派遣への推薦

沖縄ライオンズクラブは毎年夏休みに「夏季 YE（青少年交換）海外短期留学」としてマレーシアなどへ短期留学派遣を実施しています。当年度は新型コロナウイルス感染症のため中止になりました。以前は交通遺児の派遣実績がありますが、最近の派遣はありません。海外留学希望の子どもたちの願いをかなえるべく、ライオンズクラブに派遣復活を要請します。

また、当育成会独自の留学派遣費用も予算化しており、コロナ禍が収まり次第、希望者の派遣実現を図ります。

3 募金・寄付金受け入れ事業、広報活動事業

交通遺児らを支援する奨学金等給付や健全育成事業を運営するため、募金・寄付の受け入れ事業を行いました。また、交通事故防止のための広報・啓発活動にも努めました。

(1) 寄付金受け入れ状況

寄付種別は表の通りで、「指定寄付」と「一般寄付」に区分し管理しています。

当年度の寄付総額は、1729万7953円（対前年度比2696万4932円減）でした。科目別では団体寄付とボックス募金以外は減額となりました。

内訳は表の通り。

寄付の種別	科目	令和2年度	前年度	差額
指定寄付	団体寄付	13,490,807円	12,561,174円	929,633円
	個人寄付	1,684,036円	27,927,119円	△26,243,083円
	賛助員寄付	150,000円	1,238,000円	△1,088,000円
	学校募金寄付	9,500円	216,217円	△206,717円
	小計	15,334,343円	41,942,510円	△26,608,167円
一般寄付	ボックス募金寄付	1,753,610円	1,699,375円	54,235円
	小計	17,087,953円	43,641,885円	△26,553,932円
	受贈品寄付	210,000円	621,000円	△411,000円
	総額	17,297,953円	44,262,885円	△26,964,932円

ア. 指定寄付の状況

指定寄付は「使途が定められているお金」と位置づけられ、団体寄付、個人寄付、賛助員寄付、学校募金寄付の4つに区分されます。公益目的事業（交通遺児育成事業に係る費用）にのみ使用できるお金です。当年度は1533万4343円で対前年度比は2660万8167円減となりました。

団体寄付は1349万807円で92万9633円の増でした。企業周年寄付は2件100万

円でした。

個人寄付は 168 万 4036 円で対前年度比 2624 万 3083 円の大幅な減額となりました。前年度は故人からの高額な遺産寄付 2581 万 8311 円がありました。その額を差し引くと 42 万 4772 円の減額となります。

賛助員寄付は 15 万円で前年度費 108 万 8000 円減と大幅な減額になりました。学校募金寄付も 9500 円で前年度比 20 万 6717 円減額でした。賛助員寄付、学校募金とも例年 6 月に寄付依頼文書を送付していますが、当年度は新型コロナウイルス感染症拡大による県の緊急事態宣言や学校休校などあり送付しませんでした。

イ. 一般寄付の状況

一般寄付は、「用途の定めがないお金」とされ、全体の 50% を法人会計（法人運営に係る費用）に使用できるお金と位置づけられています。

内訳は、ボックス募金と金品同様に扱われるイベント招待券など受贈品の 2 つです。

ボックス募金は 175 万 3610 円で振込件数は 134 件（前年度費 6 件増）ありました。金額は前年度より 5 万 4235 円増と 3 年連続で伸びました。

ボックスの登録設置数は令和 3 年 3 月 31 日現在 1038 個です。前年度より 10 個減少しました。ボックス募金は昭和 56 年に開始。一般の方々が立ち寄り先で当会趣旨に賛同して気軽にお志を寄せていただけるものです。今後もより有効な募金ボックス設置に取り組んでいくよう努めます。

ウ. 受贈（招待券）寄付の状況

令和 2 年度にご招待を受けた催しは、次のとおりです。

受贈品(招待券)	枚数	金額	受贈団体
プロバスケットボール 琉球ゴールデンキングス公式戦（2月、3月）	60 枚	210,000 円	琉球ダイハツ販売
合計	60 枚	210,000 円	(前年度比 411,000 円減)

新型コロナの影響で多くのイベントが中止となり前年度の 6 件から今年度は 1 件に減少しました。金額換算で 21 万円、対前年度比では 41 万 1000 円の減額でした。

エ. 大口寄付の状況

令和2年度の大口寄付の最高額は100万円が4件でした。

5万円以上の内訳は次の通りです。

金額(円)	件数	金額(円)	件数
2000万円～3000万未満	0(1)	25万～30万円未満	4(6)
1000万円	0(0)	20万～25万円未満	7(5)
100万～300万	4(1)	15万～20万円未満	3(6)
50万～100万円未満	4(4)	10万～15万円未満	17(27)
40万～50万円未満	1(0)	5万～10万円未満	31(31)
30万～40万円未満	6(6)		
		合計	77(87)

※()内は、前年度の実績。

大口寄付は77件(前年度比10件減)、うち初寄付は6件(同8件減)でした。
資料12～13頁に一覧を掲載しております。

(2) 広報活動の取り組み

ア. 寄付贈呈の記事掲載

寄付金の贈呈の内容・資料を新聞社に提供し、記事掲載していただいております。
掲載されると各方面から多大な反響があります。当育成会の公益性や事業目的が理解され、継続支援・新規寄付につながっております。

イ. 機関紙『南風』の発行

理事会、評議員会、選考委員会の報告、寄付金贈呈の様子などを写真とともに紹介し、寄付者や関係団体、学校などに配布しました。郵送等による送付先は1682件で、寄付関係先681件、学校・教育委員会572件、ボックス設置場所461件、賛助会員172件などに送付しています。

令和2年度の発行状況は以下の通りです。

No.	発行号(回数)	発行時期	発行部数
1	夏季号(第92号)	令和2年 6月	4,000部
2	秋季号(第93号)	令和2年 10月	〃
3	春季号(第94号)	平成3年 2月	〃

『南風』紙面では、子ども達や保護者の声を可能な限り紹介するよう努めました。
機関紙が寄付支援する側と給付を受ける側との交流が育まれるように今後もメッセージ発信を続けたいと思います。

ウ. その他の取り組み

インターネットのホームページはソフトを利用し事務局で制作しています。財団概要、奨学金申請手続き方法、寄付支援についてなど分かりやすく説明しています。ホームページを通して、寄付者や申請者がより活用できるよう工夫しました。

パンフレットは例年、リニューアルしていますが、当会組織や、給付制度、申請手順について分かりやすく紹介する内容にするよう心がけました。事務局手作りでPRチラシも作成しました。

4 その他

公益目的事業を円滑に行うために、法人運営のための取り組みも重要です。令和2年度は、以下の通り行いました。

(1) 沖縄県補助金の交付申請手続き

県補助金は、知事に対し次年度の事業計画・収支予算書、事業実績を報告し承認を得て交付されます。事業運営の適切性、財務状況の適切な公開など厳しく検査されます。令和2年度は前年度から6万円減額の14万円が交付されました。

(2) 交通安全関連運動への参加

例年、交通事故防止や啓発活動に取り組む県・県警本部など行政機関と連携し、季節ごとの事故防止運動の出発式や、飲酒運転の根絶を目指す県民大会に参加しております。当年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため出発式や県民大会は実施されませんでした。県担当課（子ども生活福祉部 消費・暮らし安全課）が制作する事故防止・飲酒事故防止を呼び掛けるポスターを事務所周辺に掲示するなど運動の周知に努めました。

(3) 法人市・県民税の免除申請

各都道府県や市町村に、法人市・県民税の免除措置があり、収益事業のない当会は要件を満たしているため、例年、免除措置を受けています。当年度も法人市・県民税の免除が承認されました。

(4) 基本財産及び特定資産の満期書き換えの手続き

財産運用に際しては資産運用規程に準じ、国内の預貯金及び国債で管理しています。満期日を迎える場合は、担当税理士や各金融機関担当者の助言を基に「資産の保持」と「収入の確保」を意識し、運用しています。

当年度に満期を迎えた預貯金等は次の通りです。

No.	預金機関名	預 金 日	預金の種類	金 額
1	沖 縄 銀 行	令和 2 年 4 月	定期預金	45,000,000 円
2	沖 縄 銀 行	令和 2 年 4 月	定期預金	30,000,000 円
3	沖 縄 銀 行	令和 2 年 4 月	定期預金	30,000,000 円
4	琉 球 銀 行	令和 2 年 4 月	定期預金	68,500,000 円
5	琉 球 銀 行	令和 2 年 4 月	定期預金	10,000,000 円
6	琉 球 銀 行	令和 2 年 6 月	定期預金	15,000,000 円
7	J A おきなわ	令和 2 年 6 月	定期預金	50,000,000 円
8	J A おきなわ	令和 2 年 6 月	定期預金	13,000,000 円
9	コザ信用金庫	令和 3 年 2 月	定期預金	10,000,000 円
10	沖縄海邦銀行	令和 3 年 2 月	定期預金	22,000,000 円
11	沖縄海邦銀行	令和 3 年 2 月	定期預金	14,000,000 円
12	沖 縄 銀 行	令和 3 年 2 月	定期預金	12,000,000 円